

論文番号	(第 18 回研究会 2019.7.13 於青山学院大学)
タイトル	英語母語話者と日本人英語学習者による理解の表明—“I know” か“I understand” か—
著者名 (所属)	山本 綾 (昭和女子大学国際学部)
連絡先 E メール	a-yamamoto@swu.ac.jp
<p>論文内容</p> <p>(背景および研究目的)</p> <p>会話において、参加者は <i>I know (that/wh-) ...</i> や <i>I understand (that/wh-) ...</i> という形式を用いて、自身の知識の状態を示すことがある。動詞 <i>know</i> と <i>understand</i> の異同については、統語・意味的研究や学習者向けの解説が数多く存在する。ただし、そのほとんどは作例に基づくものであり、ある程度の長さにとりやりの中での使用実態は、まだ十分に明らかにされていない。</p> <p>山本 (2019) では、話しことばコーパスを資料として、理解と共感を示す形式の出現頻度を調査している。調査の結果、日本人英語学習者は、英語母語話者と比べて <i>I know</i> を多用することが示唆された。本研究では同じコーパスを用い、質的分析を試みる。<i>I know</i> と <i>I understand</i> が相互行為の中でどのように用いられているのかについて観察・記述し、英語母語話者と日本人英語学習者の相違を探る。</p> <p>(検討方法等)</p> <p>資料は、The NICT JLE Corpus に収録されている二者間ロールプレイである。ロールプレイでは、面識がなく立場・利害が衝突する人に相対し、要求に応じるよう説得するタスクが課されている。英語母語話者 17 例と日本人英語学習者 224 例のロールプレイ談話から、<i>I know/I understand</i> が含まれる発話連鎖を抽出し、<i>I know/I understand</i> の①生起位置と②後続要素に着目して検討した。</p> <p>(結果および考察)</p> <p>英語母語話者の場合、<i>I know</i> は①要求の発話よりも前に現れ、<i>I know</i> の直後には②相手が要求を断る理由として挙げそうな事柄が続くことがわかった。<i>I understand</i> は①要求が断られた直後に現れ、すぐに続けて②直前の相手発話そのまま反復されることがわかった。これらの観察から、説得場面において英語母語話者は、<i>I know</i> を forward-looking (要求が断られると見越して、相手を封じ込める) に、<i>I understand</i> を backward-looking (相手の断りを聞いたことを合図する) に用いるとみられる。</p> <p>日本人英語学習者の場合、<i>I know</i> と <i>I understand</i> はともに①要求が断られた直後のターンに現れ、②直前の相手発話の反復が後続することが典型的であるとわかった。また、“<i>I know, I know</i>”のように、後続要素を持たずに <i>I know</i> のみが繰り返されることがたびたびあった。これらの観察から、日本人英語学習者は、<i>I know</i> と <i>I understand</i> を主に backward-looking に用いるとみられる。</p> <p>(結論)</p> <p>説得のやりとりの分析によって、<i>I know</i> と <i>I understand</i> の談話機能に関して、英語母語話者と日本人英語学習者の間に異なる傾向が認められた。特に、日本人英語学習者は <i>I know</i> を頻繁に、そしてあいづちとして用いることが判明した。そうした行動が、会話の展開や会話参加者間の対人関係の構築・維持に影響を及ぼす可能性があると考えられる。</p> <p>(附記) 本研究は JSPS 科研費 (JP17K02984 基盤 C 異文化間コミュニケーションにおける共感：日本語母語話者と英語母語話者の会話の分析) の助成を受けたものである。</p> <p>コーパスおよび主な参考文献</p> <p>加藤由紀子 (2003) 『『違いが分かる男』はどんな男か』『岐阜大学留学生センター紀要 2002』, 97-109. 国立研究開発法人情報通信研究機構 (2004) 『The NICT JLE Corpus Version 4.1』 https://alaginrc.nict.go.jp/nict_jle/ 生天目知美・高原真理・砂川有里子 (2017) 「多義動詞としての『知る』と『分かる』の使い分け：コーパスを活用した類義語分析」『国立国語論集』, 12, 63-79. 牧野成一 (1973) 『『分かる』『知る』と <i>understand, know</i> について』『英語教育』, 21(12), 14-17. 山本綾 (2019) 「説得の方略としての理解と共感—英語母語話者と日本人英語学習者の談話の分析—」『JAAL in JACET Proceedings』, 1, 30-37.</p>	